

執筆者一覧（本誌掲載順）

菅村敬次郎（すがむら・けいじろう）

札幌啓成・札幌藻岩・札幌開成など、高校演劇部顧問として北海道に生きる若者を主題にオリジナル脚本を執筆。全国高等学校演劇コンクール（昭和五五年）で最優秀賞、創作脚本賞を受賞。五六年度、北海道芸術新賞に選出された。平成一年、戯曲集「あしたは天気」を出版。同書は北海道図書館協会選「北海道青少年のための推薦図書」に加えられている。平成一五年、札幌国際大学・表現芸術コースの学生による「音楽舞踏劇・イゼルギリ婆さん」を演出し、ロシア・ユジノサハリンスクで公演。現在、「小さな演劇塾」を主宰し、全国各地で中学生、高校生のワークショップを行っている。また、演技者としても活躍中。「ホルのいた森」、「三弦橋まで」などで、大切な役を演じている。

松井哲朗（まつい・てつろう）

演劇愛好者
演劇随想個人誌・季刊『続・観劇片々』発行。年金生活者。深川市在住。

斎藤 歩（さいとう・あゆむ）

劇作家・演出家・俳優
公益財団法人北海道演劇財団常務理事・芸術監督
一九六四年、釧路市生まれ。
北大演劇研究会を経て、一九八七年に札幌ロマンチカシアター鮎鮎（ほうぼ

う）舎設立。一九九六年、北海道演劇財団設立に伴いTPS契約アーティストに就任。二〇〇〇年より（株）ノックアウト所属俳優として、東京での俳優・演出家の仕事を開始する一方、札幌でも二〇〇一年からTPSチーフディレクター、二〇一六年四月より札幌に移住し、北海道演劇財団の常務理事・芸術監督に就任。
札幌を拠点にした演劇創造、東京を拠点にした映画、テレビ、舞台出演など活動は多岐にわたる。

藤村智子（ふじむら・ともこ）

札幌劇場連絡会々長
札幌市芸術文化財団で主に札幌市教育文化会館の自主事業を担当。その後、北海道文化財団コーディネーターを経て、現在同財団理事。TGR札幌劇場祭審査員を二〇〇六年のスタート時から三年間務める。二〇一二年から札幌劇場連絡会々長。またTGR2015・2016の審査員を務める。他にNPO法人コンカリーニョ理事、公益財団法人北海道演劇財団評議員、公益財団法人札幌市芸術文化財団評議員。

飯塚優子（いづか・ゆうこ）

レッドベリースタジオ主宰、アートコーディネーター、スク립ター、コピーライターを経て、4丁目プラザ企画宣伝部入社。4プラホール、駅裏八号倉庫を通じてアートスペースの運営や地域演劇のマネジメントに携わる。

二〇〇〇年から私設空間を運営し、ジャンルを問わず魅力ある表現者との交流を拡げるとともに、札幌の舞台芸術振興や基盤構築に関する提言活動に関わっている。二〇一三年度から札幌演劇シーズンス務局長。
北翔大学、北海道教育大学、札幌学院大学で非常勤講師。

安念優子（あんねん・ゆうこ）

一九五二年留辺蕊町で生まれる。江別高校で演劇と出会う。一九八一年夫と小劇場ドラマシアターどもを開くと共に、劇団ドラマシアターどもを旗揚げする。ライフワークは、平和をテーマにした二人芝居?「ババ漫才」の出演公演。（3・11以後、フクシマ放射能学習編なども）普段は喫茶ドラマシアターどもの店主（江別市二条二丁目七一・ドラマシアターども）

舞台芸術研究プロジェクト研究員

森一生（もり・かずなり）

北翔大学客員教授
札幌静修高等学校演劇部顧問就任（昭和四二年）以来、長年にわたり高校演劇指導に尽力し、全国を二度の全国優勝にまで導いた。全国アマチュア演劇協議会の創作脚本賞を受賞するなど、高校演劇の中心的存在として活躍してきた。札幌市文化奨励賞・北海道文化奨励賞・札幌市芸術賞受賞。

村松幹男（むらまつ・みきお）

北翔大学教育文化学部教授

北海道北見市生まれ。高校時代より演劇をはじめ、北大のサークル「劇団アトリエ」を経て、大学在学中の一九八三年に「デパートメントシアター・アレフ」の旗揚げに参加。全17作品に役者として参加。アレフ終了後（九〇年）、九二年に「Theater Lag・203」旗揚げ。代表。劇作、演出、役者。

田光子（チヨン・クワンジャ）

北翔大学短期大学部准教授

札幌市生まれ。在日韓国人。幼少時代にバレエ、日本舞踊、韓国舞踊を習う。大学では英文学を専攻し、シエイクスピア劇に関心を持つ。韓国・ソウル梨花女子大学大学院では韓国舞踊を実践・理論面において学び、重要無形文化財である金千興・李梅芳および梨花女子大学元教授の金梅子に師事。現在は北翔舞台芸術で舞踊芸術、身体表現などを担当している。

平井 伸之（ひらい・のぶゆき）

北翔大学短期大学部講師

埼玉県生まれ。北大のサークル「劇団アトリエ」を経て「劇団デパートメントシアター・アレフ」に参加。九二年「Theater Lag・203」の旗揚げより参加。役者・演出。

森井綾（もりい・りょう）

北翔大学教育文化学部准教授

一九八八年北海道教育大学札幌分校卒業。以降フリーでデザイン業・デザインコンテントを中心にディレクターを営む。九五年㈱アドビデオ北海道入社。二〇〇〇年四月㈱アドビデオ北海道退職。〇六年から、本学専任講師。〇九年から現職。

大林のり子（おおはやし・のりこ）

明治大学文学部准教授

神戸市生まれ。大阪大学大学院で演劇学専攻。二〇〇四年より七年間北翔舞台芸術の専任教員を務める。二〇一一年より現職。主に二〇世紀前半の上演および舞台美術の歴史研究。ドイツ語圏に出自を持つ演劇人の共同制作に根ざした舞台制作の状況、その国際的な活動について調査を進めている。

金田一仁志（きんだいち・ひとし）

日本俳優連合（西田敏行理事長）所属

日本演劇教育連盟全国委員。一九九五年、ロシア国内三劇場で、初の海外公演を成功させている。北海道教育大学、藤女子大学非常勤講師。九〇年札幌市民芸術祭奨励賞、九八年市民文化賞受賞。二〇〇〇年東京都フエスティバル（戯曲部門）全国ベストエント入選。〇九年、日本演劇教育賞ノミネート。北海道新聞夕刊のコラム「舞台裏から」執筆は六年を記録。さっぽろ市民ミュージカル代表。

岡元眞理子（おかもと・まりこ）

北翔大学教育文化学部教授

声楽家、音楽療法士（日本音楽療法学会公認。AMT No. 717650）ドイツ・グロストナハト市など国内外リサイタル12回開催、中国・瀋陽国際音楽祭、韓国・昌信大学演奏会、スウェーデン・ルント大学演奏会など、世界19ヶ国31ヶ所で演奏をしている。特にオーストラリア、シドニーオペラハウスでのトスカはニューサウス州ガバナンスより、賞賛された。ARD（ドイツ）ABC（オーストラリア）放送など国内外出演多数。教育活動として、オーストラリア・クラーゲンフルト市・ウィーン少年合唱団と合同演奏会がある。他にゲーテ「野ばら」の歌唱研究。札幌交響楽団評議員、北広島音楽協議会会長など歴任。現在は北海道二期会会員、北海道国際音楽交流会会員、日本声楽発声学会会員、日本生涯学習教育学会会員、札幌音楽協議会会員、日本音楽教育学会会員など。

野田頭希（のたがしら・のぞみ）

役者、会社員（日本板硝子北海道株式会社）

苫小牧市生まれ。北翔大学生涯学習システム学部芸術メディア学科舞台芸術コース卒業。劇団B i Stage 所属。